

からっぽ たいくつ どようびは まだ

子どもが家族に贈る「ありがとう」短編集

「いつもありがとう」作文コンクール書籍制作委員会 編

朝日学生新聞社主催、シナネグループ共催、文部科学省、朝日新聞社後援により、2006年から毎年開催している「いつもありがとう」作文コンクール。全国の小学生を対象に、普段言葉では言えない家族に対する感謝の気持ちをテーマにした作文コンクールです。本書はコンクールが10回目を迎えたのを記念して、今まで入賞した作品の中から（最新の第10回を除く）10作品を選び、小説にしたものです。制作においては、作文を書かれたお子さんとご家族に、当時の様子や作文に込めた想い、そして家族との関わりについてインタビューを重ね、そのお話を元に10篇の小説が誕生しました。このページでは、書籍に含まれていない最新の作品を一部ご紹介いたします！



▼ 過去の入賞作品を下記よりご覧頂けます

第10回 最優秀賞
「てんしのいもうと」
小学一年生 / 新橋 隆

てんしのいもうと
松橋 一太

おとうさんとお
ぼかぼかのあた
いもうととバイ
ぼくは、いもうと
おりがみでおも
「また、おかさ
いっしょにいろ
とてがみをかき
ぼくのあたりま
ありがとうのま
おとうさんとお
たべることもは
それをおしえて
ぼくのいもうと
おとうさん、お
いきていること
ぼくには、てん
だいじないじ

ぼくには、てんしのいもうとがいます。
よなか、ぼくは、おとうさんとびょういんのまあいしつにすわっていました。
となりにいるおとうさんは、すこしこわいかおをしています。
いつも人でいっばいのびょういんは、よなかになるとこんなにしずかなんだなとおもいました。すこしたってから、めのまえのドアがあいて、くるまいすにのったおかあさんとかんごしさんがでてきました。
ぼくがくるまいすをおすと、おかあさんはかなしそうに、
はをいしばったかおをして、ぼくのをぎゅつとにぎりました。
いえにつくころ、おそらはすこしあかるくなっていました。
ぼくは一人っこのので、いもうとがうまれてくることとでもたのしみでした。
おかあさんのおなかにもうとがきたときから、
まいにち、ぬいぐるみでおむつがえのれんしゅうをしたり、
いもうとのなまえをかんがえたりしてすごしました。
ごはんをたべたり、おしゃべりしたりわらったり、こうえんであそんだり、
テレビをみたり、いままで三人でしていたこと、
これからは四人にするんだなとおもっていました。
でも、はるやすみのおわり、トイレでぐったりしなげないでいる
おかあさんを見て、これからは三人なのかもしれないとおもいました。
さみしくて、かなしかったけど、それをいっただい

子どもたちが家族にあてた感謝の作文をもとに執筆された短編集が4月12日に出版されます。出版に先立ち、作文コンクールの入賞作を一部閲覧できるサイトをオープンしました。子どもたちが瑞々しい感性で書いた名作は、読めば胸が熱くなること必至です。サイト内のリンク先には、作文を讀み上げる子どものムービーが見られるページも用意。『バッテリー』のあさのあつこ先生も推薦の『からっぽたいくつどようびはまだ』。その感動の一端を、ぜひ感じてください。



出版記念特設サイトオープン